

日刊県民福井 掲載記事 平成25年 7 月11 日

病氣から子どもを守る

今年は、鳥インフルエンザA(H7N9)、マダニにかまれることにより起こるSFTS、新型コロナウイルスのMERSなどの新しい感染症や、風疹(三日はしか)の大流行が話題となっています。

感染症は、感染症を患っている人や動物、昆虫などから感染した病原体(細菌やウイルスなど)が体の中で増えたり、毒素を出したりすることで病気になるものです。感染を受けた人と病原体が闘って、人の防御機能が勝てば治って免疫(抵抗力)がつきますが、負ければ死亡することもあります。

感染症の予防には、手洗いやマスクの着用、虫刺され防止などが有効ですが、特に効果的な方法がワクチンの接種、つまり「予防接種」です。戦前や戦後間もないころは、致死率の高い天然痘や一生体にまひが残るポリオなどが流行して、大きな被害をもたらしたこ

い き い き ラ イ フ

■ワクチンで予防できる感染症と国内の発生状況

ワクチンで予防できる 感染症	1946年～50年ごろ の患者数(人) ※1	2011年の 患者数(人) ※2
天 然 痘 ※3	数人～2万	0
ポ リ オ	数百～4200	0
ジフテリア	1万～9万	0
日 本 脳 炎	数百～5200	9
麻 疹	5万～18万	439

※1 厚生労働省「伝染病統計調査」より

※2 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」より

※3 天然痘の予防接種は、現在は実施していない

予防接種正しく理解

ともありましたが、予防接種により、現在、日本では種が積極的に進められたことこれらの感染症は存在しません。また、二〇〇七年～〇八年に大流行した麻疹(はしか)については、福井県では〇八年から「はしかゼロ」を目指して高い予防接種率を維持したため、一二年七月を最後に患者は発生していません。

予防接種は、感染症にかからない、またはかかった方が体が強くなる「と思われる方もいるかもしれませんが、病原体に対する抵抗力が弱い小さな子どもだ(副反応)が現れることがあります。よく見られるのが、発熱やワクチンを打った部位の腫れ・痛みです。これらは、ワクチンによって体の中で病原体に対する抵抗力がつく仕組みが働いているために起こる症状で、通常は数日程度で治ります。

しかし、非常にまれですが、強いアレルギー反応や

「赤ちゃんと何回も注射を打つのはかわいそう」「感染症は自然にかかった方が体が強くなる」と思われる方もいるかもしれませんが、病原体に対する抵抗力が弱い小さな子どもだからこそ、病気になる(副反応)が現れることがあります。よく見られるのが、発熱やワクチンを打った部位の腫れ・痛みです。これらは、ワクチンによって体の中で病原体に対する抵抗力がつく仕組みが働いているために起こる症状で、通常は数日程度で治ります。

しかし、非常にまれですが、強いアレルギー反応や

お子さんが健康に過ごすためにも、市や町から予防接種の案内が届いたら、期限内に接種を済ませるよう努めましょう。また、保育園や幼稚園、小学校などの集団生活が始まるまでには、対象となるワクチンの接種を済ませることをお勧めします。(県健康増進課)

重い副反応 非常にまれ